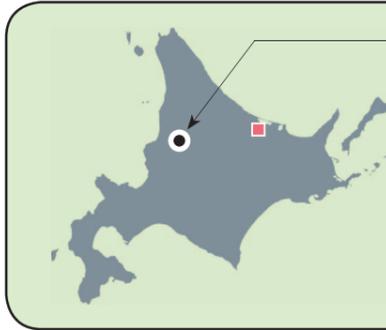


# 議会ニュース

・道内行政調査②

※各自治体の人口及び世帯数は、平成31年1月時点のもので、北海道のオープンデータを使用しています。



**空知管内 沼田町**  
 人口 3,131人  
 世帯数 1,519世帯  
 もともと炭鉱の町として栄えていたが、閉山後は稲作など農業が基幹産業となっている。  
 道内でも有数の豪雪地帯であり、冬期間に積もった雪の冷気で低温貯蔵した「雪中米」は、真夏でも新米の風味が味わえるブランド米として人気。

## 「商業」ミニ「ティー施設」 「まちなかほっとタウン」

■「まちなかほっとタウン」の概要  
 まちなかほっとタウンは、沼田町の役場・商工会・農協が出資して作られた会社「まぢづくりぬまた」により、沼田町の中心部に建設された2階建ての複合商業施設で、平成29年4月に仮オープン、その後9月にグランドオープンしました。  
 施設面積は2100㎡、建設費は約7億1000万円、財源として国や町からの交付金や補助金が充てられています。  
 1階にはスーパーマーケット、農協の金融窓口、美容室などが入居し、2階には主に農協の事務所が入居していますが、スーパーマーケットのテナントとして、品揃えが充実している大手スーパーの系列店が入ったことで、それまで隣接する深川市などへ流出していた消費を、町内に呼び戻す効果がありました。

■「まちなかほっとタウン」建設の背景  
 沼田町では町内唯一の有床病院であった厚生病院と、町内唯一のスーパーマーケットであったAコープが、施設の老朽化により建て替えが必要となり、厚生病院については無床の診療所として建て替える方針が示されましたが、Aコープについては採算の問題から建て替えずに、平成29年で閉店することが決まったため、沼田町は無床の診療所とAコープに代わる商業施設の建設を中心とした、地域再生計画「農村型コンパクトエコタウン構想」を作成し、平成26年にスタートさせました。  
 この構想は駅周辺500mの範囲内に生活に必要な施設を集約し、雪の多い冬でも歩いて暮らせる町を目指すもので、実際の施設整備は町民によるワークショップでの話し合いにより進められ、「どのよう施設が必要か」、「町のどこに建てるか」、「出来た施設でどのような活動がしたいのか」ということを、行政が主導するのではなく、町民の考えに基づいた施設整備が行われていました。



複数の商業施設が入居する「まちなかほっとタウン」

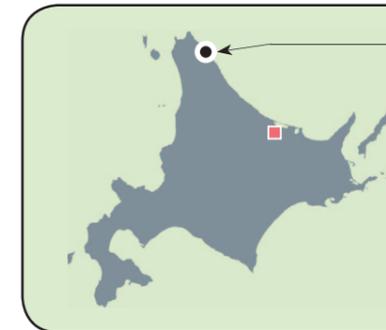
# 議会ニュース

・道内行政調査①

令和元年10月28日から31日にかけて、全議員が参加して、道内自治体の先進的な取り組みについて視察調査を行いました。

その調査内容の報告が第4回定例会で行われましたのでお知らせします。

(掲載内容は報告書を要約したものです)



**宗谷管内 猿払村**  
 人口 2,745人  
 世帯数 1,240世帯  
 水揚げ日本一を誇る天然ホタテ漁や酪農業が盛んな日本最北端の村。  
 安定した一次産業に村の財政が支えられており、少子高齢化に悩む道内自治体の中では珍しく、出生率が高く、高齢化率は低くなっている。

## 宗谷管内 猿払村 「さるふつキッズ・サポート」

■「さるふつキッズ・サポート」の概要  
 さるふつキッズ・サポートは、平成31年4月から稚内地区消防事務組合消防署・猿払支所が始めた事業で、村内の0歳から中学3年生までの子どもを対象に、病院にかかりたい子どもとその保護者を、自宅から病院まで消防署の職員が専用の車両により、無料で送迎を行う事業です。  
 送迎は基本的に猿払村国保病院が診療している平日の午前8時半から午後4時半までの間で受付しており、受診できる病院も猿払村国保病院に限られています。子どもの状況に応じて送迎時間や受診する病院の変更についても柔軟な対応が行われています。  
 なお、さるふつキッズ・サポートは稚内地区消防事務組合の中でも猿払支所独自の事業で、他の消防署では同様の事業は行われていません。



さるふつキッズ・サポート専用車両を視察

■調査感想  
 さるふつキッズ・サポートが実施できたのは、消防署猿払支所において以前から村民生活をサポートする事業が行われていたこと、また、好調な一次産業からの税収により、猿払村の財政に余裕があることが要因だと感じました。  
 本町では、ふれあいバスが町内線・町外線と整備されており、民間タクシー会社もあることから、同様の事業がすぐに必要な状況ではありませんが、猿払村の必要な交通手段を迅速に整備する姿勢は、今後交通インフラ整備を検討する際の参考に出来るものと感じました。

■「さるふつキッズ・サポート」導入の背景  
 猿払村では、郊外から村の中心部にある病院まで通うのに利用できる公共交通機関は、アクセスが不便な路線バスのみで、民間のタクシー会社もありません。  
 そのため子どもが病気になる場合、日中家の車が使えない家庭や、車があっても村外から嫁いできて冬の運転に不慣れな母親などが、子どもの通院に苦労していました。  
 この状況を把握した猿払村役場では、子どもの通院支援

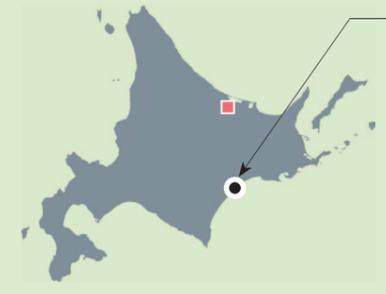
事業を行うため、消防署猿払支所に協力を依頼、猿払支所ではもともと除雪支援など、消防の本来業務を超えた事業を実施していたこと、また稚内地区消防事務組合は広域の組合であるが、消防支所の予算は各町で独自に決められることから、消防署猿払支所が実施主体となり、さるふつキッズ・サポートが開始されました。

# 議会ニュース

・道内行政調査④

# 議会ニュース

・道内行政調査③



十勝管内 浦幌町  
人口 4,754人  
世帯数 2,277世帯  
かつて炭鉱の町として栄えたが、閉山後は農林水産業が基幹産業となり畑作や鮭漁が盛ん。  
議会活性化や議員のなり手不足問題に早くから取り組んできており、全国の市町村議会が視察に訪れる議会改革の先進地である。

## 十勝管内 浦幌町 「議会活性化、議員のなり手不足への対応」

■議会活性化の取り組み  
浦幌町議会では、平成23年9月に議長から、議会活性化のための7つの検討項目が議会運営委員会に対して諮問されました。

この7つの検討項目をさらに55項目に細分化して、議員間で議論が行われた結果、浦幌町議会基本条例が制定され、平成25年4月1日から施行されました。

■浦幌町議会基本条例  
議会基本条例とは議会運営の基本的事項を定めた、議会の最高規範となる条例で、浦幌町議会はこの条例の中で、議会活性化に必要な様々な取り組みを規定しており、代表的なものとして次のような項目が条文化されています。

①【ライター議会・日曜議会の開催】  
多くの町民が議会を傍聴しやすくするため、平日の夜や日曜日に町議会を開催するように努めることを定めた。

②【議会報告会の開催】  
議会の活動状況などを議員が直接町民に説明し、意見交

われない遊び場がほしいとの要望が出され、子供が少ないのに大規模な施設が必要なのかとの疑問の声もありましたが、やるからには町外から人を呼び込める施設にして、町の知名度を上げることを目指し、キッズスクエアちっくるは建設されました。

■「キッズスクエアちっくる」の運営状況  
キッズスクエアちっくるとキュービックコネクションはとも使用料は無料、キッズスクエアちっくるを利用できるのは幼児から小学生までで、保護者の同伴が必要ですが、キュービックコネクションに関しては、屋外施設で管理が難しいことから、これらの規制は行われていませんでした。

使用料が無料なこと、札幌・旭川から近距離にあること、SNSで情報が拡散されたことなどの理由から、利用者が急増し、平成30年度は約10万人が利用する人気施設となり、来町者が増加したことで、町内の飲食店などサービスマスの業績にも好影響がありました。一方で想像以上の利用者の急増により、子供の換を行うための集まりで、年1回以上開催することを定めた。

③【反問権の付与】  
町議会本会議や各委員会で質問した議員に対し、論点を明確にするため、町長等が反問に質問することができるよう権利を定めた。

④【議会モニター設置】  
町民の声を議会に反映させるため、希望する町民の中から、町議会等を傍聴して議会に対して意見してもらう、議会モニターを設置することを定めた。

■議員のなり手不足対策  
浦幌町議会では、平成26年3月に議員定数を13名から11名に削減していたにも関わらず、平成27年4月に行われた町議会選挙において1名の欠員が生じたことから、議員のなり手不足に対する取り組みが始められ、その中で町民アンケートや町民の意見を聞く新たな取り組みを実施し、議員報酬の引き上げなどの対策が行われた結果、平成31年4月に行われた町議会選挙では、定数11名に対し新人6名を含む14名での選挙となり、新人は4名が当選しました。



視察後、浦幌町議会議員の皆さんと（浦幌町議場）

■調査感想  
浦幌町議会の議会活性化の主な取り組みとして、平成23年の改選後に議会活性化に係る55項目の検討と議会基本条例の制定、平成27年の改選後には議員のなり手不足対策が行われていました。

本町議会においても、2年後には改選期を迎えることから、議会基本条例制定のための道筋づくりや、新たな議員のなり手のためにも、更なる議会活性化の取り組みが必要であるとの共通の認識のもと進んでいかなければならないと感じました。



空知管内 秩父別町  
人口 2,424人  
世帯数 1,125世帯  
石狩川と雨竜川に挟まれ肥沃な土地に恵まれており、稲作とプロッコリーの産地として有名。  
キッズスクエアちっくるは町内外から年間数万人が訪れる人気施設となっているほか、「子ども子育て応援宣言」を行い子育て支援に力を入れている。

## 空知管内 秩父別町 「キッズスクエアちっくる」

■「キッズスクエアちっくる」の概要  
キッズスクエアちっくるは、町の中心部にある公園、「ベルパークちっくべつ」の中に建設された屋内遊戯施設で、平成29年3月にオープンしました。

施設面積は約604㎡、建設費は約5億7000万円、施設の内部には大型ネット遊具が張り巡らされ、その他ウォールクライミングやチューブスライダー等の遊具も設置されています。

また、隣接地には屋外遊戯施設のキュービックコネクションが建設され、平成30年7月にオープンしました。

これは1辺が2mのキューブが組み合わさってきた施設で、全体の高さは13m、幅は58m、建設費は約3億9000万円、20種類のアスレチックを体験することが出来ます。

■「キッズスクエアちっくる」建設の背景  
子育て世代の親から町長に対して、季節や天候に左右

された遊び場がほしいとの要望が出され、子供が少ないのに大規模な施設が必要なのかとの疑問の声もありましたが、やるからには町外から人を呼び込める施設にして、町の知名度を上げることを目指し、キッズスクエアちっくるは建設されました。

■「キッズスクエアちっくる」の運営状況  
キッズスクエアちっくるとキュービックコネクションはとも使用料は無料、キッズスクエアちっくるを利用できるのは幼児から小学生までで、保護者の同伴が必要ですが、キュービックコネクションに関しては、屋外施設で管理が難しいことから、これらの規制は行われていませんでした。

使用料が無料なこと、札幌・旭川から近距離にあること、SNSで情報が拡散されたことなどの理由から、利用者が急増し、平成30年度は約10万人が利用する人気施設となり、来町者が増加したことで、町内の飲食店などサービスマスの業績にも好影響がありました。一方で想像以上の利用者の急増により、子供の換を行うための集まりで、年1回以上開催することを定めた。

③【反問権の付与】  
町議会本会議や各委員会で質問した議員に対し、論点を明確にするため、町長等が反問に質問することができるよう権利を定めた。

④【議会モニター設置】  
町民の声を議会に反映させるため、希望する町民の中から、町議会等を傍聴して議会に対して意見してもらう、議会モニターを設置することを定めた。

■議員のなり手不足対策  
浦幌町議会では、平成26年3月に議員定数を13名から11名に削減していたにも関わらず、平成27年4月に行われた町議会選挙において1名の欠員が生じたことから、議員のなり手不足に対する取り組みが始められ、その中で町民アンケートや町民の意見を聞く新たな取り組みを実施し、議員報酬の引き上げなどの対策が行われた結果、平成31年4月に行われた町議会選挙では、定数11名に対し新人6名を含む14名での選挙となり、新人は4名が当選しました。

■調査感想  
キッズスクエアちっくるは、季節・天候に左右されない子供の遊び場が欲しいという親の思いと、町の知名度を上げたいという町長の思いにより建設され、来町者を増やし、町内経済にも好影響をもたらしていました。

大都市に近い秩父別町と違い、本町でこれほどの施設を建設しても運営していくことは難しいと考えますが、子供の遊ぶ施設の必要性など、今後の施設整備の参考にできるのではと感じました。



張り巡らされたネットにより立体的に遊べる施設内部

ケガなど安全管理面での課題も発生していました。